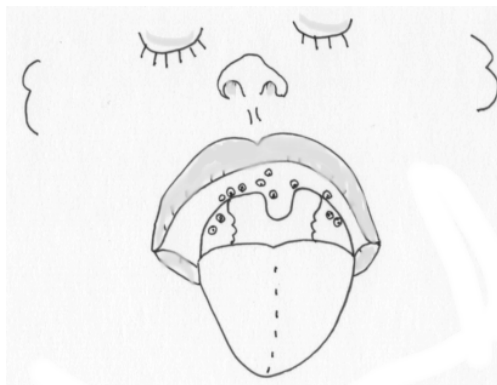


ヘルパンギーナ

は、のどが痛くて高熱の出る夏風邪です。



まえぶれもなく突然発熱

「咳も鼻水も出ないのに
どうしたのだろう？」

まあまあ元気は良いのに 水分ばかり飲んで固形物を食べなくなる。

小児科に行くと「ヘルパンギーナ みたいですよ」と診断されます。

熱は2～4日で下がります。

■ 「ヘルパンギーナ」は、コクサッキーウイルスの仲間が原因になって起こる夏風邪の代表選手です。同じ頃流行する「手足口病」も、同じ仲間のウイルスが原因です。手足口病によく似た発疹が出来ることがあります。

■ のどが痛くて高熱が出るのが特徴です。熱は小さな子どもほど高く、40度を越すこともあります。小学生くらいになると「頭が痛い」とか、「背中が痛い」などと言うこともあります。5歳以下の子どもでは病気の起こりはじめに嘔吐することもあります。

■ のどにぶつぶつが出来ます。真ん中が白っぽくて周りが赤いぶつぶつです。

■ ヘルパンギーナのウイルスに効く特別の薬はありません。抗生物質も効果がありません。

■ 高い熱の時期が過ぎてしまえば、けろりと治ってしまう病気ですが、熱が続いて、強い頭痛や嘔吐を繰り返すときには、無菌性髄膜炎の可能性があります。もう一度受診してください。

■ のどの痛みが強いので、のどにやさしい食べ物を工夫して与えることと、十分な水分を与えることが大切です。アイスクリーム ゼリー ヨーグルト シャーベット プリン 冷たいおしるこ 冷やしたポタージュスープなど...いろいろと試してみてください。

■ 飲み物は酸っぱいオレンジジュースなどを避け、イオン飲料水や乳製品のほうがよいでしょう。

■ 登園・登校基準
熱が下がって、食事が取れるようになったら、園や学校に行ってもかまいません。